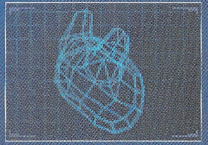
STORY 2-3

手術No08

神の手を目指して

患者 —

TIME LIMIT —

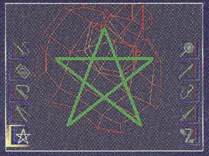


超執刀を手にするため、自己鍛錬を行なう。手に集中して☆を描き続け、超人的集中力を体得すること。

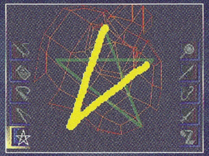
1 手に意識を集中

2 ガイドラインに沿って☆を描く

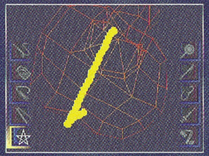
3 体得できるまで☆を描き続ける



1
手を2回タッチすると手のマークが☆に変更。この状態にすると超執刀を発動させられる。



2
画面中央に表示されたガイドラインに沿って☆を描く。正確さより短時間で描くことが重要。

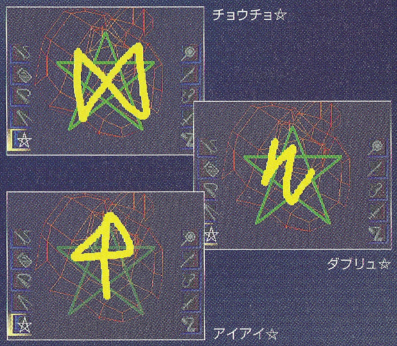


3
ガイドラインがなくなった状態で☆を描く。3回成功すれば、超執刀を体得できる。

COLUMN

☆はどこまで☆と認められるのか!?

超執刀を発動させるために描く☆。じつはこの☆、☆にこだわらなくとも発動させられるようだ。超執刀を発動させられた図形の一部を右で紹介しているが、ダブリュ☆は逆さにしてMでも、ギリシャ文字のΣでももちろん発動させられた。いろいろ試してみた結果、この超人的集中力を発生させるために重要なことは、まず、ひと筆書きであることが大前提。さらに、90度以内の角を3ヵ所持つ図形であれば概ね発動させられるようだ。つまり、角はあっても四角形やひし形、台形などでは発動しないということだ。ただし、☆の形に近いほうが超執刀を使える時間が長くなることをお忘れなく。



チョウチョ☆

ダブリュ☆

アイアイ☆

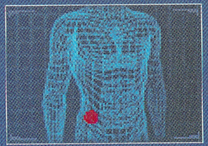
STORY 2-4

手術No09

神の手の覚醒

患者 小松守夫

TIME LIMIT 05:00:00



大腸付近に発生した血管瘤摘出手術を行なう。精密さが必要となるため、必ず患部の拡大をしてから処置をはじめること。膨張がはじまった血管に鎮静液を注入し、患部を縮小させる。その後、瘤の切除摘出し、血管を吻合したあとに縫合をすること。

1 スキャナで患部を拡大

2 注射器で血管瘤に鎮静液を注入

注射器を選ぶと右下にでる茶色の薬品が鎮静液。血管瘤が大きくなりすぎると、1回の注入では鎮静化しないので、その場合は何回か注入を行なおう。

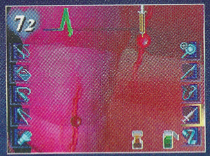


2
血管瘤の放置はなるべく避けたい。膨張して破裂すると、バイタルが急低下してしまう。

3 鎮静化した血管瘤をメスで切開

4 ピンセットで瘤を摘出

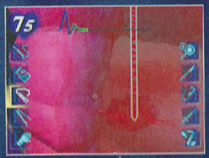
5 ドレーンで血液を吸引し術野を確保



3
瘤の切開後、ほかに破裂間近な瘤があれば切開した瘤には触らず、ほかの瘤の対処をしよう。

6 ピンセットで血管吻合

吻合とは切断された血管を一本につなげ直すこと。血管の片方をピンセットでつまみ、もう片方の切り口に乗せるように動かそう。吻合後は7の血管縫合に入ってもかまわないが、吻合した状態にしておけばバイタルは低下しない。ほかの血管瘤の状態やバイタル値の状態を見て行動を決めていこう。



4～6
血管瘤摘出後は速やかに吸引から吻合までを行なわないと、バイタルが著しく低下してしまう。

7 血管を縫合

ひとつ目の血管瘤の処理が終わると、新たな血管瘤が1個発生する。血管の縫合を行なうまえに、回復剤を投与しバイタルを上げておくこと。2個の血管瘤が出現したあとは、血管を1本縫合した時点で新たな2個の血管瘤が発生する。2本目の血管を縫合するまえにこちらもバイタルを上げておこう。

8 スキャナで拡大を解除

処置をしやすい場所に血管瘤が入るよう、再びスキャナで患部を拡大。その後2～7を繰り返し血管瘤の摘出を行なおう。なお、血管瘤は右の写真で紹介するように、全部で11個を摘出をすることになる。



7
血管瘤は写真の順に発生。5個の血管瘤はすべての血管瘤の処置後に同時発生する。